



2000年3月21日  
インフォテリア株式会社

## インフォテリア、XML 処理エンジンの新バージョン「iPEX 2.0」を発売

～ XSLT や XPath などの新技術に対応し、より高度なアプリケーションの開発を容易に ～

インフォテリア株式会社（東京都品川区、代表取締役社長：平野洋一郎）は、3月21日、高性能 XML<sup>\*1</sup> (eXtensible Markup Language) 処理エンジン「iPEX<sup>TM</sup>」(アイペックス) の新バージョン「iPEX 2.0」を4月17日から出荷開始することを発表しました。

iPEX は、XML 対応のアプリケーションソフトウェア開発に必要な XML 処理を網羅したソフトウェアで、各種アプリケーションソフトウェアに組み込んで使用することによって XML データの解析、XML データの編集、XML データの生成を、簡単な命令だけで実行することが可能となります。iPEX は、1999年1月に世界初の商用 XML エンジンとして出荷開始され、これまでに50社以上での採用実績を誇ります。今回のバージョンアップで強化された点は以下の通りです。

- ・ XSLT 1.0 勧告対応<sup>\*2</sup> 「iXSLT」の機能を全て包含
- ・ XPath 1.0 勧告対応<sup>\*3</sup>
- ・ URL 指定による XML データ読み込み (HTTP, FTP)
- ・ DOM Level 2 仕様(一部：Namespace 処理など)への準拠
- ・ 処理速度向上

今回のバージョンアップで、iPEX は XML の入出力・編集に加えて、XML データを他の構造や Compact HTML<sup>\*4</sup> などに変換する機能を有するほか、インターネット上からの直接のデータ入手も可能になることから、より高度な XML アプリケーションをより簡単に作成できるようになります。

iPEX 2.0 は、新仕様の他、W3C の XML 1.0 勧告、DOM Level 1<sup>\*5</sup> 勧告、Namespaces in XML<sup>\*6</sup> 勧告などの標準仕様に準拠した XML 処理プロセッサで、C++による実装で高速処理を実現しています。「iPEX」は、C++用ライブラリ形式の他、Windows 版では COM 形式でも提供されます。

## 積極的な販売促進を実施

iPEX 2.0 の発表にあたり、インフォテリアは積極的な販売促進を実施します。まず、iPEX を組み込んで開発された商品に貼付する「Powered by iPEX」のロゴプログラムを制定します。ロゴ製品には、特別な販売促進協力を実施します。また、IT 系雑誌を中心とした、iPEX 組み込み製品やソリューション事例の広告を実施します。事例広告の第 1 弾はインクリメント P 株式会社製のベストセラーデジタル地図ソフト「MapFan」で、3 月下旬から広告展開を開始します。

## 対応 OS と価格

iPEX 2.0 は、Windows 対応版、Solaris 版、Linux 版を 4 月 17 日に発売し、Macintosh 版、Windows COM 版、Windows CE 版を第 2 四半期中に発売します。他の OS への対応も OEM により実施します。iPEX 2.0 は単体版の価格が 40 万円で、ランタイムライセンスが 5 ライセンス含まれています。以前のバージョンからのバージョンアップ価格は 20 万円です。iPEX のメンテナンス契約ユーザーおよび 2000 年 1 月 7 日以降に購入されたユーザーには無償で iPEX 2.0 が提供されます。

また、iPEX を組み込んだ形でソフトウェアをパッケージ販売する場合に必要な再販権を含んだ「プロフェッショナルエディション」を用意しています。「プロフェッショナルエディション」の価格は、含まれるランタイムライセンスの数により 200 万円からとなっています。

iPEX 2.0 は、全国のインフォテリア XML プロフェッショナルインテグレーターを通じて販売します。

## インフォテリア株式会社について

インフォテリア株式会社は、1998 年に設立された国内唯一の XML 専門ソフトウェア会社です。インフォテリアでは、先進の XML テクノロジーをベースに、XML の普及を促進するコンポーネント製品や、企業間(B2B)の電子商取引(EC)およびアプリケーション統合(EAI)を XML ベースで行うためのソフトウェアを提供しています。

###

<価格一覧> 4月17日発売の製品のみ

名称	価格
iPEX 2.0 for Windows <sup>1</sup>	¥400,000
iPEX 2.0 for Windows プロフェッショナルエディション-100 <sup>2</sup>	¥2,000,000
iPEX 2.0 for Windows プロフェッショナルエディション-1000	¥4,000,000
iPEX 2.0 for Windows プロフェッショナルエディション-無制限	¥8,000,000
iPEX 2.0 for Solaris	¥400,000
iPEX 2.0 for Solaris プロフェッショナルエディション-100	¥4,000,000
iPEX 2.0 for Solaris プロフェッショナルエディション-1000	¥8,000,000
iPEX 2.0 for Solaris プロフェッショナルエディション-無制限	¥16,000,000
iPEX 2.0 for Linux	¥400,000
iPEX 2.0 for Linux プロフェッショナルエディション-100	¥2,000,000
iPEX 2.0 for Linux プロフェッショナルエディション-1000	¥4,000,000
iPEX 2.0 for Linux プロフェッショナルエディション-無制限	¥8,000,000

プロフェッショナルエディションの後続の数字は、添付される再販ランタイムライセンスの数を示す。

## <用語説明／注釈>

*1 XML (エックス エム エル)	eXtensible Markup Language の略。データの内容とデータの構造を切り離し、意味付けされた情報を双方向に交換するための標準データフォーマット。1998年2月10日にW3Cより勧告された。次世代のウェブ上の情報交換フォーマットとして注目を浴びている。  ※参考情報→ <a href="http://www.w3.org/TR/REC-xml">http://www.w3.org/TR/REC-xml</a>
*2 XSLT (エックスエスエルティー)	XSL Transformationの略。XSLは、eXtensible Stylesheet Languageの略。XMLデータにスタイル付けを行ったり、XMLのデータ構造を変換するための標準仕様。1999年11月16日にW3Cより勧告された。  ※参考情報→ <a href="http://www.w3.org/TR/xslt">http://www.w3.org/TR/xslt</a>
*3 XPath (エックスパス)	XML Path Language。XSLTおよびXPatherで使用するXMLデータ内の指定を行うための標準仕様。1999年11月16日にW3Cより勧告された。  ※参考情報→ <a href="http://www.w3.org/TR/xpath">http://www.w3.org/TR/xpath</a>
*4 Compact HTML (コンパクト エイチティーエムエル)	NTTドコモの「iモード」サービスで使用される簡易版HTML。携帯電話での表示を考慮して通常のHTMLから使用できるタグを大幅に削減したもの。ただし、携帯電話専用の独自タグも一部存在する。
*5 DOM (ドム)	Document Object Model の略。XML などの構造化データを扱うための標準インターフェース定義。1998年10月1日にW3Cより勧告された。  ※参考情報→ <a href="http://www.w3.org/TR/REC-DOM-Level-1">http://www.w3.org/TR/REC-DOM-Level-1</a>
*6 Namespaces in XML (ネームスペース)	複数のXMLベースのデータフォーマットを組み合わせることで、既存のXML文書定義を再利用することを可能にする標準仕様。1999年1月14日にW3Cより勧告された。  ※参考情報→ <a href="http://www.w3.org/TR/REC-xml-names">http://www.w3.org/TR/REC-xml-names</a>

## <お問い合わせ先>

記事掲載用：	<a href="mailto:info@infoteria.co.jp">info@infoteria.co.jp</a>	(電子メール)
	<a href="http://www.infoteria.com/">http://www.infoteria.com/</a>	(ウェブサイト)
プレス専用：	03-5783-6505	(電話)
	<a href="mailto:press@infoteria.co.jp">press@infoteria.co.jp</a>	(電子メール)
	担当：広報 中村幸代	

以上